

高山植物と富士山の今

井上典昭

(日本高山植物保護協会事務局員、富士山五合目自然解説員、
山梨県立富士河口湖高校非常勤講師)

Alpine plants and Mt. Fuji today

Noriaki INOUE

Mt. Fuji 5th Station Nature guide

はじめに

三年前、山梨県立高校の教員を定年退職してある程度自由な時間ができたので、以前から加盟していた NPO 法人日本高山植物保護協会（以下 JAFPA）の事務局員をすることになった。JAFPA は山梨県発祥の全国組織で、いわゆる高山植物と言われる植物について、観察したり保護活動をする組織だ。私はその事務局で環境省に依頼された「国内希少種の生育地における違法採取監視等業務」についての山梨県内の取りまとめを行っている。業務内容としては県内 5 地点（甘利山・櫛形山・三ッ峠・山中湖明神山・南大菩薩大蔵高丸）について調査員が、アツモリソウなどの希少植物の生育状況を調査したものを取りまとめて環境省に報告している。



アツモリソウ（三ッ峠）

ご存じの方もいると思うが、山梨県は富士山・北岳・間ノ岳という日本の標高ベスト 3 を持ち、北岳や八ヶ岳・奥秩父といっ

た豊富な植物種を持つ山々がある。そして、いち早く「高山植物保護条例」を制定して高山植物の保護に取り組んできた。ここでは高山植物が置かれている現状と JAFPA の活動についての説明をしたいと思う。

高山植物の置かれている現状

様々な場所で温暖化の影響について言われているが、いわゆる極地や高山ほどその影響は大きい。私も高山に登り始めて 40 年になるが、その変化を目の当たりに見てきた。



鹿柵に守られたアヤマメ（櫛形山）

まず、高山植物の開花が早くなっている。今年の、7 月に加賀の白山に登って自然解説員の方に話を聞くと白山室堂の植物は開花が以前より 1 カ月近く早くなっているそうだ。

私は、本年は山梨県内の 2 つの山を巡視した。

1 つは甲府盆地の西側、南アルプスの前衛峰である櫛形山（南アルプス市）で田中澄江さんの著書「花の百名山」にも選定されているいわゆる花の山である。かつては東洋一といわれたアヤメ群落を擁しホテイアツモリソウやテガタチドリなどの希少種がある。

もう 1 つは大菩薩嶺の南にある大蔵高丸（大月市・甲州市）であまり知られていないが、亜高山草原が広がり、アツモリソウやヒメヒゴタイなどの希少植物が存在する。



百花繚乱の大蔵高丸草原

いずれの山も標高が 1,500~2,000m で、かつては高山植物ブームもあり、かなり盗掘が行われ株数が減少したが、今はむしろ温暖化で草原に小低木が繁茂し始めたため草原が消失し、それに加えて全国的なシカの食害の増加により株数が減少している状況である。

日本高山植物保護協会（JAFPA）の役割

JAFPA では、高山植物の保護を目的として、生息調査や観察会を行っている。前述の環境省の依頼による巡視・調査だけではなく、個々の団体や会員が独自の活動を行ったり、情報交換をしている。

昨年度は創立 35 周年を迎えたので、10 月に記念シンポジウムを行った。次にそのプログラムと内容を掲載する。

シンポジウム進行表

9:00 開館

9:10 受付開始

9:40~10:00 開会式

10:00~12:00

第一部 植物研究者の講演

12:00~13:00 昼食

13:00~15:00

第二部 自然保護団体活動事例

15:00~16:30

第三部 山の現状報告 & パネルディスカッション

16:30~16:40 閉会式

17:00 閉館

第一部：講演者のご紹介

・国立科学博物館 植物研究部 多様性解析・保全グループ長 遊川知久博士

ラン科植物を中心に植物の多様性のご研究をされていて、絶滅の恐れのある種や遺伝資源を次世代に伝えるための活動を行っています。

・東京大学大学院 総合文化研究科 広域科学専攻 准教授 池田啓博士

植物生態学がご専門で、高山植物の系統進化プロセスや環境適応化に光受容体が果たす役割を明らかにされています。

第二部 活動事例発表者

・豊橋市・葦毛湿原：

豊橋市文化財センター 学芸員 贅 元洋氏

・掛川市・小笠山：

小笠山を愛する協議会 副代表 瀧本 健氏

・沼田市・玉原高原：

利根沼田自然を愛する会 副会長 二川 真士氏

・山梨市・乙女高原：

乙女高原ファンクラブ 代表世話人 植原 彰氏

第三部 山の現状報告者

・山梨県・三ツ峠：

専務理事・本部長 中村光吉氏

・静岡県・南アルプス：

副会長・静岡支部長 鵜飼 一博氏

特に、第一部の最初に講演された遊川博士は、(公)日本植物園協会の理事もされていて、その後の「第3回 種子・孢子・組織培養を使った保全フォーラム」(Web ミーティング)にもお誘いいただき、日本植物園協会に加盟している植物園や団体がいかに種子や孢子を保存しているかもレクチャーしていただいた。

ただ、JAFPA も会員が高齢化して活動を縮小化せざるをえないので、若い方の加入が望まれる。

富士山の現状とこれから

職場が富士河口湖町と富士山五合目にあるので、現在富士山が置かれている問題点も目の当たりにしている。

昨年度の流行語大賞にノミネートされた「コンビニ富士山」は、ほとんど毎週その前を通っている。富士急行線河口湖駅からすぐのところで、昨年からインバウンドが急に増えてきてローソンの方をしきりに写真に撮っている。中には歩道からはみ出して歩いている人もいてあぶないなと思っていた。日本人の感覚からすれば何の変哲もない日常の景色なのだが、インバウンドには珍しいのだろう。



コンビニ富士山

富士山五合目の登山者も私が見る限りは半分以上がインバウンドであり、その国籍も様々だ。現在のところ自然解説は日本語でしかやっていないが、将来的には多言語で対応しなければならないだろう。

富士山は比較的新しい山なので植物種はあまり多くない。しかし、7月中旬のお中道に咲くハクサンシャクナゲの群落は見事で、シャクナゲ街道が形成される。また、林床にはコケモモやイチヤクソウが咲き、訪れる人を楽しませてくれる。しかし、ここでもマナーを徹底させるのが難しく、ゴミのポイ捨てや弾丸登山などが日常的に起こっている。



ハクサンシャクナゲ (富士山お中道)

また、山梨県では富士山登山鉄道構想が立ち上げられ登山電車が走る計画がすすめられたが、急遽ゴムタイヤのある富士トラムに替えられた。富士山五合目の現場を見ている私たちは、富士山は常に雪崩で道が破壊されているし、いつ起こるかもしれない噴火に対して登山鉄道もトラムも対応できないということは重々承知しているが、県はなかなかそのことを理解してくれないようだ。

おわりに

地球温暖化・シカの食害・盗掘・オーバーユース・噴火など日本の山々を取り巻く様々な危機をこの40年間、目の当たりにしてきた。都市部でも事故や犯罪が多発して、人々の心のすさみが明らかになって、さらに今後、気象災害が増え、大地震もいつ起こるかわからない。(能登半島で起こったことは他の地域でも起こる可能性がある)。でも日本の国土には誇るべききれいな水が流れ、その源流はすべて山なのである。自らの目でその山を見て、清流や美しい花の存在を知ることによって、自分たちが今後進むべき道や目指すべき方向性が見えてくる。多くの人が謙虚な気持ちで山を訪れて自分を見直すきっかけをつかむことを願ってやまない。